

このような留学滞在経験を書くのはこれで二度目になります。一度目は日本にいたころの修士課程の間にこちらに1年程交換留学できていたときです。早いもので、初めてチューリッヒを訪れたときからもう2年以上もの月日が経ってしまいました。まだまだ、慣れないことも多いですが、やはり時間が経つと不思議なもので、いろいろなことが普通になってくるといいますか、慣れるというのでしょうか、世界の見え方、考え方が数か月前を振り返る度が変わっているなあ、というのを実感します。どの程度参考になるかわからないのですが、以下に簡単に、留学までに至った経緯を紹介させていただきたいと思います。

### 留学を決めるまで

長期で学位取得を目指した留学をしてみたいと思ったのは、おそらく東大の学部4年生の時に、小野雅裕さんが主宰されていた米国大学院留学説明会に参加したときがきっかけだったと思います。そのとき、早く行ってみたいという気持ちはあったものの、卒業研究を始めたばかりでしたし、何の研究がしたいのか、将来はどうするのか、などが全く心の準備ができておらず、また英語もあまり得意ではなかったため、そのまま東大の修士課程に進むことにしました。しかしながら、やはりどうしても外に出てみたいという気持ちが強かったので、結局、修士課程の間に学部のころにスイス連邦工科大学チューリッヒに1年間交換留学することに決めました。この大学を選んだ理由は、学部のころに読んでいた論文で、一番気に入っていた論文がこの大学の研究室からだったからです。早速その論文の第一著者のポストドクと教授にメールを出したところ、交換留学の間の指導をしていただけるということになり、留学を決めました。交換留学中にいろいろな人と出会ったり、様々な経験をしたりするうちに将来は研究者になりたいと思うようになりました。一年はあっという間に過ぎ去り、修士2年の半ばになったころにアメリカの大学院博士課程に行くのか、チューリッヒでそのまま続けるのか選択することになりました。アメリカには昔から行こうと思っていたので、だいぶいろいろと調べていましたし、スイスで研究をしながら、アメリカの数名の教授にコンタクトをとったりしていました。しかしながら、いまいち“ここだ”という研究室が見つからず、そのときの研究ではいろいろまだやり残したことがありましたので、どうも大学院を変える気分になれませんでした。かといって、優柔不断な自分はすぐにアメリカという選択肢を切ることはできず、だいぶ長い間うだうだどうしようかと迷っていたと思います。迷いあぐねた末、最終的にはやはり好きな研究をやるのが一番だろうという結論で、いまいる選択肢を選ぶことにしました。

### 大学について

殆どの内容は大学のページから見ることはできるのですが、ときどき日本人の学生から

こちらの博士課程のシステムについて質問のメールを受けるので、それらを簡潔にまとめてみたいと思います。

まず、スイス連邦工科大学チューリッヒでは日本のほとんどの大学のように、修士課程と博士課程が分かれています。アメリカのように一つではありません。なので、日本で修士をやられた方にとっては、修士課程をやり直す必要がないのが良いところだと思います。しかしながら、博士課程に進学するには修士号が必要なので、学士から直接博士課程に進学するということができないので不便になる方もおられると思います。どうやらスイス連邦工科大学のローザンヌでは特例として学部から直接博士に上がるということも可能なことがあるようなのですが、残念ながらチューリッヒでは例外は認められないようです。大まかに全体の構造を説明すると、現在は工学系の場合、学部が3年、修士が2年、博士は人に拠りますが平均3~4年くらいです。ただ、成果さえ出せば、最低年限はないので、聞いたところでは2年半ほどで論文もしっかりだして博士課程を卒業される方も稀にいます。5年(?)ほど前まではディプロマ制を取っていたので、そのころは修士と学士がくっついていて、合わせて5年だったそうです。今でもドイツの一部の大学ではディプロマ制は健在でドイツの会社の方は名刺などに学位としてディプロマと書いているのをちらほら見かけます。

入学時期に関する質問も良く受けるのですが、修士課程までは9月始まりで2学期制です。しかしながら、博士課程になると話は全く違って、基本的に一年のいつでも始めることができます。博士課程の研究をすることになる研究室の教授と相談して、開始時期を決めるのが一般的だと思います。開始時点で既に学期の途中だった場合は、次の学期から授業を取り始めます。

## 雑感

スイスというとあまり日本人からするとほとんど馴染みがない国のような気がします。実際自分も修士でくるまでは、まさか自分がスイスに将来暮らすことになるろうとは、考えたこともありませんでした。スイスは面白い国で、4つの言語圏からなっています。また、土地的にもフランス、ドイツ、イタリア、オーストリアに囲まれているため、ヨーロッパの中心的な役割を果たしているようです。電車で周辺国にすぐ行けるのはやはりスイスならではですし、安い飛行機などを探せばイギリスや北欧にも数時間で簡単に行けてしまうのは素晴らしいです。ヨーロッパの国は近いのに、本当に国ごとに雰囲気、言語が全く違うのは面白いです。

スイスというとみなさんスイスアーミーナイフを思い浮かべるかと思うのですが、実際スイスアーミーナイフを持っているスイス人はすごく多いです。全員持っているのではないかと思うくらい持っていて、日常生活で多用しています。かくいう自分も景品で大学のロゴ入りの良いものをだいぶ前手に入れたので、愛用しています。慣れると非常に便利です。蛇足失礼しました。